

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02081

研究課題名(和文)南アジアにおける障害のある女性の教育とジェンダーに関する研究

研究課題名(英文)Gender and Education of Women with Disabilities in South Asia

研究代表者

古田 弘子(FURUTA, HIROKO)

熊本大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：60315273

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、南アジアにおける障害女性の教育とジェンダーについて総合的に明らかにすることである。

第1に、インド各地の当該分野の研究者と面談し情報収集を行い、最終年度にそのうち2人の研究者を招へいし熊本と東京でシンポジウムを開催した。加えて翻訳書「インドの女性と障害」を発売した。第2に、スリランカにおいて実態把握を行うとともに、インド・スリランカ両国で障害のある女子大学生を対象とした比較調査研究を行った。本研究の成果は4本の紀要論文で公開した。

本研究は、南アジアを舞台に、障害女性の教育をジェンダーの観点から分析するという新しい領域を開拓した点にすぐれた価値がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、女性であり、障害があることによって二重に周縁化される障害のある女性の教育が、現代インド社会でいかなる実態にあるのかについて検討した。

近年わが国では、障害のある女性への複合的な差別に対して当事者を中心とした啓発活動が活発化している。本研究は、南アジアを舞台に、障害女性の教育をジェンダーの観点から分析したものであり、不平等是正、ジェンダー平等などの持続可能な開発目標の達成に向けたプロセスに連なるものであり、きわめて今日的意義が高い。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify education and gender of women with disabilities in South Asia. First, the researcher visited several research institutions in India to meet researchers in this field and exchange ideas. In the final year, she invited two researchers from India to hold symposiums both in Kumamoto and Tokyo, and also published a translation book titled 'Women and Disability in India.' Second, interviews were conducted for comparative analysis both in India and Sri Lanka focusing women with disabilities who are university students. Results of this study have published in four journal articles.

This study contributed to the sprout of researches of education of women with disabilities in South Asia from gender perspectives where limited studies had been done before.

研究分野：障害者教育

キーワード：障害 女性 教育 ジェンダー 南アジア インド スリランカ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2006年に採択された国連障害者権利条約の第6条は障害女性についての条項であり、女性であり障害者である障害女性の受ける複合的な差別について言及する。この背景には、障害女性が、障害男性と比較したときに教育やリハビリテーションを受けられる者の割合が低く収入も低いといった実態があり、障害とジェンダーにより二重に周縁化される存在であることが広く認識されるようになったことがあげられる。

しかしながら、障害者教育分野においては、従来障害とその克服に焦点があてられ、ジェンダーや貧困といった教育と深くかかわる他の要因は後景に退く傾向があった。

そこで、研究代表者は平成25-26年度に科研萌芽的研究(25570018)を実施し、障害女性の教育におけるジェンダー問題について、欧米では、教育の中での性比不均衡、障害女性のニーズに即したキャリア教育の開発の2点に関して主に研究が行われてきたことを明らかにするとともに、スリランカの障害のある女性の教育に関する考察を行った。

障害者が社会的・文化的偏見のために教育にアクセスできない開発途上国においては、障害への社会の否定的な態度や、文化に根ざすジェンダー役割に目を向ける必要があるだろう。

南アジアの中でもインドではHans(2015)に代表されるような、障害女性に関する書籍出版が重ねられてきている。このようなインドにおける当該分野の研究蓄積はこれまで日本国内ではほとんど知られていない。これを解明することで障害女性の教育とジェンダーに関して、新しい分析視角を提供することができると思われる。

そこで、本研究では、いずれも研究代表者がこれまでフィールドとしているインドとスリランカに焦点をあて、障害のある女性の教育とジェンダーについて検討することとした。

### 2. 研究の目的

本研究は、南アジアにおける障害のある女性の教育とジェンダーについて、インドとスリランカに焦点をあて総合的に明らかにすることを目的とする。

特に、インドの研究資源、スリランカの障害女性と教育の実態、両国の障害のある女子大学生の教育の比較検討を行うこととする。

### 3. 研究の方法

#### (1) インド・スリランカの研究者とのネットワーク構築と討議

インドの女性学・障害学・教育学を専門とする大学や研究センター、女性障害者団体を訪問し関係者と面談し、それらのウェブサイトの研究文献・資料類を収集する。また、日本で国際シンポジウムを開催し、公開討議を行う。

日本で国際シンポジウムを行う際には、障害者への合理的配慮の提供についても可能な限りの検討を行うこととする。

また、スリランカの研究者についてはこれまで既に長年に渡ってネットワークを再確認するとともに、このテーマに関連して新たな研究者との連携構築につとめる。

#### (2) インドの研究資源の日本語訳・購読

上述のHans(2015)の日本語訳を行うとともに、それ以外の関係書籍・文献を購読する。

#### (3) インドとスリランカにおける障害女性への面談調査

1) 両国で、障害女性に個別インタビューを行い、受けた教育の段階、教育の形態、家族状況(宗教・文化)との関連から、障害女性の教育とジェンダーの実態を明らかにする。

2) 両国で、障害のある女子大学生に半構造化面接を行い、高等教育を受けるに至った障害女性の教育とジェンダーの実態を明らかにする。

### 4. 研究成果

#### (1) インド・スリランカの研究者とのネットワーク構築と討議

1年目(2017年度)および2年目(2018年度)にインドでのネットワーク構築のために面談した研究者の面談年月、場所、所属、氏名、専門分野、討議・調査内容を表1に記す。表1の9人の研究者中、3人は2年に渡って面談をしているため実質的には6人である。

2017年8月および12月に、インドの主要都市を移動しながら、A.ハンズ博士および、A.ハンズ博士編著の書籍(後述)の分担執筆者である3人と面談し、障害とジェンダーについて討議し、資料紹介を受け、興味関心のすりあわせを行った。

2018年度には、3か所で、障害女性および障害女子大学生面談調査を行った。また、A.ハンズ博士とは書籍の翻訳に関する打ち合わせもあわせて行った。

2019年5月に2人の研究者を日本に招聘してシンポジウムを開催し、インドの女性と障害と教育に関する考究を深めた。

また、スリランカについては、これまでも共同研究者を行っているスリランカ公開大学 A.アルウィス上級講師(障害者教育)およびペラデニヤ大学 P.セートウンガ教授(教育制度学)と、スリランカの障害児の教育に関する情報交換を行うとともに、障害女性および障害女子大学生面談調査を行った(2017年9月、2018年12月、2019年8月)。加えて、コロボ大学人文学部の C.リヤナゲ上級講師(社会学)と障害とジェンダーに関する討議を行った(2018年12月、2019年

8月)。

表1 インドで面談を行った研究者の概要

| 面談年月    | 面談の場所    | 所属               | 氏名・職階          | 専門分野         | 討議・調査内容     |
|---------|----------|------------------|----------------|--------------|-------------|
| 2017.8  | コルカタ     | カルカッタ大学          | S. ハルダー博士      | 障害者教育        | 障害・ジェンダー・教育 |
|         | デリー      | ミランダハウス・カレッジ     | U. チャクラヴァルティ講師 | 障害者教育        | 障害とジェンダー    |
|         | カライクディ   | アラガッパ大学          | J. スジャタマリニ博士   | 障害者教育教員養成    | 障害者教育       |
|         | ムンバイ     | ターター社会科学研究所      | S. リマエ博士       | 障害学          | 障害とジェンダー    |
| 2017.12 | ブバネーシュワル | 元ウトカル大学          | A.ハンズ博士        | ジェンダーと障害の政治学 | 障害とジェンダー    |
| 2018.8  | チェンナイ    | マドラス・クリスチャン・カレッジ | R.ロビンソン博士      | 障害者教育        | 障害女子大学生面談調査 |
|         | ムンバイ     | ターター社会科学研究所      | S. リマエ博士       | 障害学          | 障害・ジェンダー・教育 |
| 2018.12 | コルカタ     | カルカッタ大学          | S. ハルダー博士      | 障害者教育        | 障害女子大学生面談   |
|         | ブバネーシュワル | 元ウトカル大学          | A.ハンズ博士        | ジェンダーと障害の政治学 | 障害女子大学生面談調査 |

## (2) インドの研究資源の日本語訳と購読

A.ハンズ博士編著の書籍を検討したところ、その先進性およびインドの状況全般を俯瞰できるという理由から翻訳出版に意義があると判断した。そこで、2017年度に翻訳分担者4人とともに翻訳を進め、2019年度に出版に向けた作業を進め、2019年度中に出版に至った。タイトルは、「インドの女性と障害：女性学と障害学が支える変革に向けた展望」であった。

本刊行物は、女性であり、二重に周縁化される障害女性が、現代インド社会を自律的に生きるための道筋を、ジェンダーの視点から検討した論集であった。編者アーシャ・ハンズ（オディッシャー州ウトカル大学政治学科元教授）を中心とした、社会科学および関連領域（社会学・人類学・法学・社会福祉学・心理学）の研究者および活動家が各章執筆者となっている。

本刊行物の出版により、インドでジェンダーの視点で障害をとらえるための諸問題、多様な障害女性の経験の言語化、労働と法における方略の全体像を把握することに貢献した。

出版にあたっては、令和元年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）「学術図書」の交付を受けた（課題番号 19HP5160）。

上記出版物以外に、多くの政府刊行物、学術論文、報告書等を入手し購読し、分析結果を論文にした（雑誌論文）。すなわち、障害のある女性と少女の教育状況に関する先行研究から明らかになった事柄を、教育へのアクセス、社会・文化的背景、教育サービスの内容、NGOの役割に分け、ジェンダーの観点から考察し、インドでは教育問題は単独で存在するというよりは、社会の態度や就労といった他のさまざまな問題と複雑にからみあっていることを明らかにした。

## (3) インドとスリランカにおける障害女性への面談調査

2018年度には、インド3か所で、障害女性（10人）および障害女子大学生（10人）面談調査を行った。また、A.ハンズ博士とは書籍の翻訳に関する打ち合わせもあわせて行った。またスリランカでは、2017年9月、2018年12月、2019年8月に、障害女性（10人）および障害女子大学生（10人）面談調査を行った。

面談調査では、1人30分程度で通訳補助者に補助をしてもらい、就学前教育からの各自が受けてきた教育および将来の計画について、半構造化面接でインタビューを行った。

これらの調査のデータの整理はできているので、今後論文にして成果を公開していく。

## (4) 研究成果の公開

上述したように、2019年5月に2人の研究者を日本に招聘してシンポジウムを開催した。

熊本では26人の参加者があり、S. ハルダー博士が障害女性の結婚、S. リマエ博士が聴覚障害女性をテーマに講演し、指定討論および質疑応答を行った。会場では、日英通訳の他、障害者への情報保障として、手話通訳、遠隔文字通訳を行い、さらに講演者のS. リマエ博士には筆記通訳を行った。

東京では、21人の参加者があり、S. ハルダー博士が障害女性の教育、S. リマエ博士が高等教育を受ける障害女性をテーマに講演し、指定討論および質疑応答を行った。会場では、日英通訳の他、障害者への情報保障として、手話通訳、遠隔文字通訳を行い、さらに講演者のS. リマエ

博士にはPC テイカーによる文字通訳を行った。

講演会を通じて、インドの障害とジェンダーの交差領域に対して、教育を切り口にした分析について、また、社会や文化に根ざす障害、ジェンダーに対する態度が教育に及ぼす影響をおよぼすかについて、具体例を聞くことで理解を深めた。

両シンポジウムにおいては、表1に記すように当該分野の専門家に司会者、コメンテータとして協力いただいた。両シンポジウムについては紀要論文として報告している（雑誌論文）。

表2 熊本および東京におけるシンポジウムの概要

|    | トピック      | 会議進行   |
|----|-----------|--|
| 熊本 | 障害女性の結婚   | ・司会：平野みどり（DPI 日本会議）  |
|    | 聴覚障害女性    | ・コメンテータ：吉村千恵（タイの女性と障害研究者）  |
| 東京 | 障害女性の教育状況 | ・司会：ラミチャネ・カマル（筑波大学人間系）・コメンテータ：森壮也（JETRO アジア経済研究所）<br>・コメンテータ：金澤真実（一橋大学大学院） |

加えて、小規模国際会議における合理的配慮の提供の実践の結果について報告したことも本研究の成果としてあげられる（雑誌論文）。

なお、国際会議開催にあたっては、ウェスレー財団の2009年度活動支援金を受けるとともに、東京大学先端科学技術研究センター福島智教授から合理的配慮の実施にかかる配慮と支援をいただいた。

文献：

Hans, A. (ed.) (2015) *Disability, Gender and the Trajectories of Power*. Sage Publications India. New Delhi.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 5件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>古田弘子   | 4. 巻<br>67            |
| 2. 論文標題<br>インドにおける障害のある女性とジェンダー：ハンズ(2015)を抛りどころにして   | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>熊本大学教育学部紀要   | 6. 最初と最後の頁<br>83-90   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br><a href="http://hdl.handle.net/2298/41461">http://hdl.handle.net/2298/41461</a>   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>古田弘子   | 4. 巻<br>36            |
| 2. 論文標題<br>インドにおける障害のある女性と少女の教育：ジェンダーの観点から   | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>熊本大学教育実践研究   | 6. 最初と最後の頁<br>267-374 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br><a href="http://hdl.handle.net/2298/41813">http://hdl.handle.net/2298/41813</a>   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Furuta, H. and Alwis, K. A. C.   | 4. 巻<br>19            |
| 2. 論文標題<br>Teaching students with special educational needs in an inclusive setting in Sri Lanka: Regular class teacher's view.  | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>Journal of International Cooperation in Education  | 6. 最初と最後の頁<br>1-18    |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br><a href="http://home.hiroshima-u.ac.jp/cice/wp-content/uploads/2018/01/19-2-1-1.pdf">http://home.hiroshima-u.ac.jp/cice/wp-content/uploads/2018/01/19-2-1-1.pdf</a> | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>該当する          |
| 1. 著者名<br>古田弘子・金澤真実  | 4. 巻<br>68            |
| 2. 論文標題<br>インドの女性と障害，教育 2019インド女性と障害会議（熊本 & 東京）報告  | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>熊本大学教育学部紀要   | 6. 最初と最後の頁<br>55-60   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br><a href="http://hdl.handle.net/2298/43007">http://hdl.handle.net/2298/43007</a>   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>古田弘子・山田京子・金澤真実  | 4. 巻<br>68          |
| 2. 論文標題<br>小規模国際会議における合理的配慮について 日英両言語による情報保障を行った例   | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>熊本大学教育学部紀要  | 6. 最初と最後の頁<br>61-67 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br><a href="http://hdl.handle.net/2298/43008">http://hdl.handle.net/2298/43008</a> | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)   | 国際共著<br>-           |

[学会発表] 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>古田弘子   |
| 2. 発表標題<br>障害のある子どもの教育 インクルーシブ教育、障害女兒に着目して                    |
| 3. 学会等名<br>本南アジア学会設立30周年記念シンポジウム(九州)「教育からとらえるインドの現在:多様性の中の平等」 |
| 4. 発表年<br>2018年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>山田京子・古田弘子                             |
| 2. 発表標題<br>インドにおける聴覚障害児教育 タミル・ナードゥ州チェンナイの聾学校訪問から |
| 3. 学会等名<br>ろう教育科学会第61回大会(岐阜大会)                   |
| 4. 発表年<br>2019年                                  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>古田弘子・山田京子                                      |
| 2. 発表標題<br>インドにおける聴覚障害者の高等教育 タミル・ナードゥ州チェンナイの高等教育機関に焦点をあてて |
| 3. 学会等名<br>日本特殊教育学会第57回大会P13-09.(広島大学)                    |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>古田弘子  |
| 2. 発表標題<br>教育社会学の視点からインクルーシブ教育を検証する:南アジア, スコットランド, 日本の事例から |
| 3. 学会等名<br>日本特殊教育学会第57回大会自主シンポジウム8-16. (広島大学)              |
| 4. 発表年<br>2019年  |

〔図書〕 計2件

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>古田弘子 (監訳)                     | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>明石書店                          | 5. 総ページ数<br>339 |
| 3. 書名<br>インドの女性と障害: 女性学と障害学が支える変革に向けた展望 |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                             | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                        | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 連携研究者 | ラミチャネ カマル<br><br>(LAMICHHANE KAMAL)<br><br>(60752962) | 筑波大学・人間系・准教授<br><br><br><br>(12102)          |    |
| 連携研究者 | 鹿毛 理恵<br><br>(KAGE RIE)<br><br>(90638826)             | 東京福祉大学・留学生教育センター・特任講師<br><br><br><br>(32304) |    |